

令和5年度原子力規制委員会行政事業レビューに係る公開プロセス（取りまとめコメント）

事業番号	0029	事業名	シビアアクシデント時の放射性物質放出に係る規制高度化研究事業（東京電力福島第一原子力発電所事故分析結果の反映）
------	------	-----	---

取りまとめコメント

- ・本事業における研究の重要性については理解するが、研究成果には予見できない側面があり、基準類等へ必ずしも反映されない可能性もあることを踏まえれば、基準類等への反映だけではなく、アウトカムについてより検討する必要がある。
- ・研究テーマ選定時、研究途中、研究完了時の各段階に応じた評価基準を設ける、研究水準そのものの在り方を評価するなど、通常のロジックモデルとは異なる形で評価を行うことも検討すべきではないか。
- ・一方で、政府として行う事業である以上、国民各層に対して研究内容やその成果をわかりやすく伝える工夫を行う、コスト面での透明性を確保するなどの点には十分に配慮する必要がある。

各外部有識者からのコメント

（飯島委員）

- ・それぞれの研究テーマについて、選定時、研究途中、研究完了時における、評価基準をより明確化する必要があると考える。本事業の目的として、福島第一原子力発電所事故の要因分析および規制基準改正等への反映がある。研究事業を進めるに当たっては不確定な部分もあり、最終的に研究成果が規制基準改正等へ反映されない可能性もあると考えられるが、研究テーマの選定時の評価において、研究テーマを過度に絞り込みすぎないように配慮する必要があると思われる。なお、テーマ選定時においては、事業者ではなく、原子力規制委員会が取り組むべき課題である理由は明確にすべきであると考え。また、研究途中、研究完了時においては、研究成果が十分に規制基準改正等へ結びついたのかどうか明確にした上で、たとえ規制基準改正等へ十分に結びつかない場合でも、事故の要因を十分に究明できたとどうかについては、しっかり検証すべきと考える。
- ・本研究事業の期待される研究成果として、緊急時活動レベル(EAL)の見直しがある。特に、緊急時の判断基準として炉心損傷も想定されている。この場合、これまで以上に、原子力規制庁緊急時対応センター（ERC）、原子力施設事態即応センター（原子力事業者本店）および現地対策本部（オフサイトセンター）間での連絡調整が重要となると考えられ、また緊急時対策支援システム(ERSS)との更なる連携も必要ではないかと考えられる。緊急時活動レベル(EAL)の見直しにあたっては、それに付随して必要となるさまざまな体制整備を、スムーズに進める必要があると考える。

（南島委員）

- ・本事業のアウトカムには、基準類・指針・審査への活用が掲げられているが、本事業の研究の結果で基準類・指針・審査に活用されるものは限られている。他方で原子力規制庁における研究水準の維持はそれ自体きわめて重要なものである。本事業の実務的な評価については確かに基準類・指針・審査への活用が求められる。だが、その基礎となる研究面での評価については、研究水準そのもののあり方に係るもっと本質的な説明が必要だろう。

（吉田委員）

- ・安全研究の内容やその結果について、数値の意味を含めて、中学生・高校生ぐらいからお年寄りの方まで分かるような内容になっているとまでは言えない。引き続き国民に対してわかりやすく伝える工夫等を行っていただきたい。
- ・安全研究の成果についての第三者による評価は困難である一方、毎年評価対象となるため、「安全研究に係るアウトプット・アウトカムに対するコメント対応の変遷」における過去の所見と、評価対象事業における改善点や概算要求における反映状況の対応表を作成することが望ましい（今回であれば、令和4年度のアウトプット・アウトカムに係る所見を採用している。）。
- ・当事業の安全研究の成果を定量的に評価するためには、爆発抑制効果の指標、冷却効果の指標、環境への放射能の影響評価の指標などを用いることも考えられる。過去の所見にとらわれずに、その時々で最善と考えられるアウトプット、アウトカムを採用していただきたい。

（茶野委員）

- ・本研究の重要性についてはご説明等により十分理解できたと考える。
- ・他方でアウトプット、アウトカムの設定については、科学技術的な研究の場合、より深い議論が必要であるように思われ、個々の研究単位ではなく組織全体で検討されてはどうかと思う。
- ・例えば、研究の計画時の考え、中間地点でのレビューと計画変更、終了時の結果と将来的インプリケーションを各々明確にしておき、外部評価を受けるなども1つのあり方ではないか。

（中空委員）

- ・必要な事業であると思う。しかしこういった“未知の分野”、“方向性の分からないもの”、“どこで何が出てくるか分からないもの”だけれどやるべきことで、結果が出れば大きな成果である可能性があると思われ期待される事業については他の事業と同じようにEBPM、PDCAサイクルにのせることが適切なのかは疑問である。
- ・日本に起きた不幸な出来事を国内外のこれからの存分に活かせればと切に願う。しかし時間的にはなるべく早く、コスト的にはなるべく安く効率的にやるべきだという点が例外的に扱えるわけではない。事務費1億円が仮にすべて海外出張費だとすると、1回100万円として100回含まれているわけで本当に正当かは不明だとも思います。いろいろな知見を吸収し、よりよい研究をしていただきたいが、どこで資金が必要になるか分からない分、十分に透明性に気を払っていただきたいと思う。

(永久委員)

- ロジックモデルのアウトカムは、それを目指してこの研究事業を行うのか、あるいは必ずしも目指すものではなく、結果としてそれもありうるということなのか、いささか不明瞭である。
- 特定のアウトカムを目指すのであれば、いつまでにどのような成果を出すべきかをスケジュール管理を行い、それに基づいたスピード感ある取り組みが求められる。一方、研究結果は予見できない側面があるので、幅広いアウトカムを期待するというのであれば、ロジックモデルでアウトカムを限定する必要はないのではないか。またどちらも追求するとしたら、それに相応しい評価方法を作るべきである。
- ただし、政府が行う事業であるならば、あるべき姿を想定して、それからバックキャストिंगして研究テーマを含め、何をすべきかという政策立案の立場から研究事業が行われるべきと考えられる。
- 電力が高騰化しているなか、原発再稼働が期待されている。その安全性についての国民の関心は極めて高く、本事業の成果が早く規制や災害対策に反映されることを望む。